大泉高校新聞

【発行所】
東京都練馬区
東大泉5-3-1
都立大泉高等
学校生徒会
新聞小委員会
電（924）0318
〔発行責任者〕
2年　野呂光晴

生徒総会もめる
四校時まで臨時に延長

○……二月二十五日、定例生徒総会が開かれた。形態は今までとは違って、社……○
○……会科教室においての各クラス三名出席の代議員制で、各教室には放送に……○
○……よって会の模様が伝えられた。議題は、昨年度決算の中間報告と、天文、……○
○……硬テ、バドミントンの、同好会・部昇格の件、そして今年度予算案につ……○
○……いてが主な内容で、保健委より掃除について重大な連絡もあった。……○

保健委員会は、今年度四月より掃除を毎日するという方針をうち出した。新しく規則をしくのではなく、毎日掃除が行われていた頃の状態にもどって、校舎内外の美化に努めようということで、総会では連絡として取り扱われた。

議長団は生徒の反発が大きいため実際には実施困難だから、"努力していこう"という提案の形で報告するつもりでいたのだが、保健委員会では、実施すると、決定した形で連絡をしたので、話が食い違い、会の進行がスムーズにいかなかったということだ。また、このことは、生徒委員会で総会の議題に取りあげるかどうかの承認をとっていなかったので、総会では話し合うことができず、代議員の中にははがゆい思いをした人もいたであろう。

天文有志愛好会、硬式テニス同好会、バドミントン同好会の、同好会・部昇格については、それぞれの代表が今までの活動状況や実績、現在の立場におけるマイナス面などを述べた。そして一般生徒に昇格の承認をとったところ、いずれも八十%前後の承認を得、天文は同好会へ、硬式テニス、バドミントンは部へ、めでたく昇格した。

今年度の予算案については特に、新聞小委員会の予算が大幅にはね上がるという点で代議員からいろいろな意見、批判が出た。大泉高校新聞を年三回発行するためであるが、年三回分を要求するより、壁新聞やフレッシュタイムズの発行をもっと増やしていくのが先決ではないか、という意見もあった。新聞小委員会もそういう意見を今後の活動に反映していくつもりである。

その他にも、私費と部費の区別がはっきりしない、ということで、査定委員会に対して詳しい説明が求められた。結局、六十一%の承認を得て予算は可決されたが、今回は棄権が目立ち、承認の率も低かった。

総会全体としては、社会科教室の中では意見がたくさん出ていたが、一般生徒の様子や意見が把握できず、わずかに、教室より社会科教室へ駆けつけて意見を言った生徒もあったが、やはり生徒とのつながりが薄いのではないかという不安はぬぐい去れなかった。今後の課題であろう。また今回は集計にマイコンが導入されTVの画面に写し出された数字に、会場の生徒たちは皆興味深く見入っていた。物理部の活躍によるものであった。

予算にからんで、新小の委員長は生徒会長も兼任しているので、執行と新小がゆ着しているのではないか、という疑問が出た。会長は、断じてあり得ないとはっきり否定したが、そういう疑問をもたれる前に、自分の立場を明確に示す工夫をしてもよかったのではないだろうか。

論説　大泉生の責任感を問う

現代の若者は、無関心・無感動・無責任などということを一般によく言われている。そして大泉生も、その例にあてはまるような人が少なからずいるようだ。

それは、生徒総会やH・Rの時の意見の出方にも影響している。大泉高校に来るような人達は、中学時代少なくとも何らかの形で中学の生徒会や委員会で発言して来たと思う。それならば大泉の生徒総会やH・Rが活発になるのは不思議なことではなく当然のことであるはずである。が現実には、ある一定の人しか意見を出さずに、他の人はそれに賛成するばかりだ。

これは、どのようなことに原因があるのだろうか。今までに述べて来たように生徒一人一人は、絶対意見を持っていると思う。しかし実際はそれが出て来ない。これは一種の無責任とか無関心につながるのではないか。確かに二・三人の意見を聞いてどれかに賛成するのは簡単なことである。少し変な意見を言ったりすると笑われてしまうこともあるが、発言をしなければそれもない。果たして、人任せの意見が本当に自分の意見として成り得るのだろうか。一致することもあるだろうが、微妙に異なっているのではないか。そしてその違いが大変に重要になることも多いはずである。だからその細かな点の違いによる議会というものはだんだんとよくなって行くのではないだろうか。

これから社会に出て行った場合に小規模・大規模といろいろな会議があり、それに出席しなければならないこともあるはずだ。高校という所は勉強をしたり、体を作ったりということをするばかりではなく、これから社会に出て行くための人間形成を一つの目的として存在していると思う。総会で意見が言えるということは、社会に出てからも自分の意見をしっかりと持ち、それを言えるということにつながって来るはずだ。だからこそ、しっかりとその練習のつもりで今、自分の意見を持ちどんどんと発言をしていくことはとても大切なことだと思う。

大泉高生全員が現代の若者の特徴である無関心・無責任・無感動などということのない人間になってほしいのである。そして社会に出て行った時に、大泉高校の出身者は、だれもかれもが自己の意見を持ちそれを主張でき、とかく無責任な現代の若者に似合わず立派な人格を持った人達であると言われるようになってほしいものである。

新入生の出身校と担任団

今年は、倍率が二倍という高さで昨年と比べ夾き門となったが、その難関を乗り越えて、大泉へ四七一人の新一年生が入って来た。そこで新入生の出身校別人数と担任団を招介してみたい。

出身中学校（人数）

練馬区
旭　丘（六）三原台（一）
豊　玉（五）豊玉二（五）
北　町（七）開進一（一）
中　村（九）〃二（一〇）
田　柄（一）〃三（一）
貫　井（四）〃四（七）
練　馬（八）練馬東（一〇）
豊　渓（八）南が丘（一三）
大　泉（一四）大泉学園桜（一）
大泉二（一八）大泉学園（七）
〃西（一四）石神井（一〇）
〃北（八）石神井南（一一）
八　坂（九）〃東（一八）
関（六）〃西（一六）
谷　原（一五）上石神井（九）

中野区
中野三（二）中野八（八）
〃四（二）〃九（二）
〃五（六）〃十（二）
〃六（三）〃十一（五）
〃七（一〇）北中野（一六）

杉並区
杉　森（五）高円寺（一）
東　田（三）阿佐ヶ谷（二）
松　渓（四）神　明（二）
天　沼（六）宮　前（一）
東　原（五）富士見丘（一）
中　瀬（四）高井戸（二）
井　荻（六）松ノ木（一）
井　草（一〇）西　宮（三）
荻　窪（一〇）向　陽（一）
その他（一六）

新一年担任紹介

一組　吉成　裕先生（生　物）一部でよっちゃんの愛称あり。生物をこよなく愛する人。

二組　矢野浩司先生（英　語）暗記、暗記の一時間。囲碁、園芸、写真の趣味をもつ。

三組　清水昭守先生（国　語）声はでかいが怖くない。悪いことすると、すごく怖い。

四組　幸田泰伸先生（数　学）職員室でよく囲碁を打ってらっしゃる。ゴルフも趣味。

五組　太田　繁先生（保　体）大泉高出身の先生。チャイムと同時に遅刻になるよ。

六組　佐藤　徹先生（世界史）氏名つなげてサトール。諸外国に旅行した先生。

七組　吉田登代子先生（保体）大泉高出身。ダンスがお上手で、何故か鼻歌も趣味とか。

八組　児島真行先生（英　語）新任の先生。旅行とフランス語が趣味だそうです。

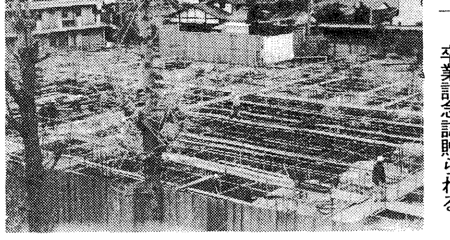
九組　津田晨吾先生（現　社）古銭収集、史跡見学が趣味。ひょうきんだが一味違う先生。

十組　広瀬万喜子先生（美術）我が校の芸術家で、先生方も、何かというと頼っちゃう。

練馬文化センターでの卒業・入学式

昨年度の卒業式と、今年度の入学式は、練馬文化センターにおいて行われた。体育館がないとはいえ、あまりに気の毒な式であった。

特に卒業生などは、友達や先生方との別れを惜しむ間もなくセンターから追い出され、先生方は「やはり一度学校に戻って来させるべきだった」と後悔していた。最後の最後まで、工事の影響を受けて、本当に気の毒な学年だった。



『来年から使用される体育館』

卒業記念誌贈られる

執行委員会が中心に、初めて卒業記念誌というものを製作し、卒業生に贈った。先生や在校生の送る言葉や、卒業生の思い出、先生方の名セリフ、三年間の主な出来事、校歌などをわらばん紙22枚でとじ、執行費をはたいて色画用紙の表紙をつけた。付録にはユニークな大泉高校すごろくがついていた。

執行委員の話「三年生の原稿がどんどん来たのでびっくりした。新年度から一つの委員会を作って、毎年作るようにしたい」

記者席　大泉生の良い点

今年は、雪が三月中旬まで降り続いたり、大泉高校入試の倍率が二倍になったりして、異変が相次ぎました。

しかし、伝統で変わらない大泉高生の良い点を挙げてみようと思います。まず第一には、団結力があることでしょう。生徒総会などにはほとんど関心を示さないくせに体育祭や文化祭になるととたんにやる気を起こして盛り上がることです。次に、誰がリーダーになっても、たいがいはうまくいくということ。リーダーに、リーダーという自覚がなくとも、囲りからどんどんと良い意見を出してくれるので、すごくやりやすくなるのです。それは誰もが底力を持っているということになり、良い点と言えるでしょう。更には、自分の部や同好会や委員会には、積極的に取り組んでいこうとする人が大勢いることもよいことの特徴の一つに挙げられると思います。挙げればまだまだありますが、これ位にしておきましょう。

さて、各学年よくそのことを考えてみて下さい。新二・三年生は、自分がその伝統を受け継いでいるかまたどのように受け継いでいくかということを。そして新一年生は、それをよく学び取ってこれからの社会生活や、学校生活に役立て、次の代の人達にまで良い伝統として残していくように努力をしていって下さい。

期待してますよ。

改築工事予定

改築委員の先生に第二期工事の予定を尋ねた。これはあくまで予定という事で期間は多少ずれることがある。

○生徒ホール（床の張り変え、塗装、窓枠→アルミサッシ）…今年七、八月いっぱい。

○二、三号棟（外壁塗装、床の張り変え、サッシ交換）…今年の夏休み中。

○プール、体育館…今年一月着工～来年一月初旬完成。（早ければ一月中旬より使用可能。たぶん二月から）

○グラウンド（スプリンクラー、表土作業）…今年九月から。

原稿募集

我々新聞小委員会では、皆さんからの原稿を募集しています。学校生活の中で面白かったこと、悲しかったこと、大泉生や先生に対する意見・感想などがありましたら、円型校舎一Fの一番校舎に近い入口を入って並んでいるドアの四つ目（赤いドア）のポストへ原稿を入れておいて下さい。必ず書いてほしいことは○学年・組・氏名匿名でも可○タイトル○サブタイトルもあればそれも書いて下さい。

大久保先生御逝去

去る一月二九日、英語科の大久保俊男先生が脳内出血のためお亡くなりになった。前日の二八日には学校で授業とHRをなさってお帰りになったが、その日の夜、突然倒れられ、手術のかいもなく翌日にはお亡くなりになった。三十一日に行われた告別式には、大雪の中を大勢の生徒や先生が集まり、故人を見送った。

（関連記事四面）

路標

エー、我校の名物を御紹介しましょう。まず何といっても桜並木。初代校長が生物の先生だったので、次から次へと植えまくった。学校のまわりにヘイがなかった頃は、お茶の木が一周していたというからすごい。グラウンドのまわりの桜は卒業記念に贈られたものだが、もう既に四十年が過ぎた。卒業記念といえば、キンコンカンコンのチャイムも卒業記念品である。昭和三十六年まで、毎日、ブザーが鳴り響いていた訳だ▼名物とはいえないが、校庭の広さも大泉の特徴である。正門から玄関までのでっぱった土地は、もともと大泉の土地ではなかったのだが、PTAのお金と都のわずかな援助によって、あとから買い取った土地である。戦争中のドサクサにまぎれて?できたことなのかも知れない▼今は亡き体育館とあの古ぼけた円形校舎も、同窓会やPTAのお金で建てたものである。最近になって、都のおエラ方がうるさく言うので都に寄付してしまった。名目にこだわる迷惑な存在だ。（アレ?この学校は何立だ?）▼プールを長い間作らなかったのには理由がある。この学校は土地があるので五十メートルプールにどうしてもしたかった。都が許可するまでねばっているつもりだったのだが、とうとう根を上げてしまった。都立でありながらこれだけ広大な土地を持ち、五十メートルプールまであったら、さぞかしまわりの都立高はうらやむだろうなあ▼名物と言えるものに、もう一つ、砂嵐がある。突風が吹く日を楽しみにしていただきたい。見事な赤土が砂漠ロマンの世界へ導いてくれるだろう▼鉄筋校舎といえども雨もりはする。開かない窓、閉まらない窓もあるが、驚くに値しないことだ。

教育を見るII

○……第一回（一二四号）では、英語、国語、数学……○
○……について特集した。その時は、紙面の関係上……○
○……やむを得ず社会を割愛したが、記事担当者の……○
○……怠慢で、掲載が相当遅れてしまった。今回は、……○
○……特集の続きとして社会科について掲載する。……○

教育―。我々生徒はそれを受ける側であるが、学んでいくには受け身ではいられない。教育課程を客観的に見てみることで、何をどのように学んでいったらよいのかを、少しでもつかむことができるのではないだろうか。

❖

社会科　横山　正治先生

一、序文

日本が太平洋戦争に敗れて戦前日本を支えていた価値体系が崩壊したとき、社会科は戦後の民主主義教育の眼目の一つとして学校教育に登場した。社会と人間についての基本問題を理解し、そのなかで民主主義社会の担い手にふさわしい資質を陶冶することがその目的であった。戦後の四十年に及ばんとする歴史の中で、社会科のこの基本性格は、迂余曲折を経ながらも、今日まで一貫して変わってはいない。しかし、アメリカのコース・オブ・スタディに学んだ学習指導要領は、高校の場合今日まで五回の改訂を経て、現行のものは一九七八年の第六次指導要領となり、一九八二年から新教育課程として実施にうつされた。そのたびに社会科の科目もまためまぐるしく変化してきた。このたびたびの改訂を、「時代のめまぐるしい進歩にあわせて教育内容を改善するため」であったとも、「戦後民主主義教育の骨抜きの過程」であったともいう。そのつど学習指導要領の改訂をめぐっては、論争や対立がおこった。前者の論でいえば今度の改訂で「より良くなった」はずだし、後者の論でいけば「ますます悪くなった」ことになる。一体いずれが正しいのか。気の弱い者には心臓が痛くなるような話である。おそらくそこをつついているだけでは水掛け論になってしまう。

❖

二、新教育課程について

社会科の場合、旧課程では共通必修として政経と倫社。地理・世界史・日本史は選択履修としていた（本校では全部必修）。それが新課程では共通必修として低学年に現代社会。中、高学年では地理・世界史・日本史・倫理・政経を選択履習とした。工業や商業などでは地理以下は全くとらないこともあり得ることになった。（本校では地理・世界史・日本史は必修、政経・倫理は自由選択）。旧課程の倫社・政経が現代社会にとってかわり、地理以下の内容の改善を行ったのが新課程ということになる。それを理念として見ると、現代社会で、社会と人間の基本問題を理解し、人間尊重の立場から環境・資源問題や国際理解を広い視野に立って深める。この基礎的・基本的学習をふまえて、中、高学年で、地理以下の専門的学習を行うというのである。現代社会は中学での公民・地理・歴史の総合と、高校での専門的学習の橋渡しの役を担っているとも言える。私は旧課程がそれほど良いとも思っていなかったから、新課程でも論理的には一応筋が通っていると思う。問題は内容である。

指導要領解説を読むと、現代社会では、「生徒の興味と関心を重視すること」「思考力の育成を重視すること」の二点が強調されている。政治・経済・文化・社会・人間について、高校生が持つ関心を土台にして、自分の頭で考え正しい判断を下し、それに応ずる行動選択を行えるようにするというのが大目的であるとわかる。教科書はそのための素材であると考えてよいだろう。その意味ではこの科目ほど多様な展開が可能なものはないと思える。私は一昨年一クラスだけ現代社会の授業を持ったが、いろいろ欠点はあるにしろ発表形式の授業と論文テストを組み合わせてみた。どれだけ効果があったかは疑問だが、今後もたくさんの試みが行われ、その中で方向が出てくるかも知れない。自由や権利を身近な遅刻、早退、外出と結びつけて考えてみたり、大衆文化状況の学習を文化祭の反省を通して考えたり、憲法や核問題の学習で理想主義の強さと弱さについて考え、自己の生きがいを考えてみることもできよう。社会科の中で、最も生徒の活動の余地があるのが現代社会と言えそうだ。ただし、現代社会は共通一次必修に含まれており、受験との関係で理想倒れに終わる可能性もまた高いと言える。

❖

▼横山先生には、教育課程の新・旧比較のみならず、社会科の歴史も辿った、興味深い考察をいただいた。

前回の特集では、「新旧入試科目の単位数比較」の表や今後の新課程における問題点なども考え、まとめてみたので、新入生で興味のある人は新聞小委員会に気軽に申し出て欲しいと思う。

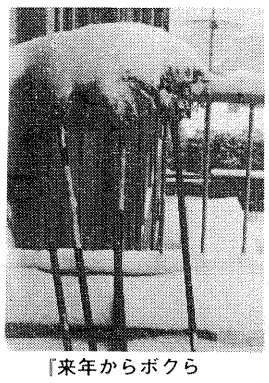
▼理科については、担当者が先生に執筆を依頼したのだが先生も御多忙で〆切日などの打ち合わせが食い違ったりして、今回に間に合わすことができなかった。特集がバラバラになって申しわけないが、先生からの学習上の助言など教える側の生の声をぜひいただきたいので、理科はまた次号に掲載することにする。

▼今、教育問題について、色々な方面で議論がなされている。私達も教育を受ける立場として、もっと積極的に考えるべきではないかと思う。第一人者は私達なのだから。

掃除は毎日やる？

今まで大泉高校での清掃は週一回だった。もっと以前は毎日やっていたのだが、だんだん怠慢になり、せめて水曜日と土曜日だけはやろうというのが、いつの間にか一日だけやれば良いという習慣になってしまったのである。

昨年度から、執行委員会の提案で月一度各委員会の委員長が生徒委員会に出席することになり、毎回、執行からの提案を発表している。保健委員会に対しては、「石けんが各流しに行き届いていない」「掃除のやり方を細かく決め、マニアル（説明書）を作ったらどうか」などの意見が述べられ、保健委では、これを受けて、マニアル作成と同時に、掃除は毎日やろうという話し合いになった。そして先日の生徒総会で、保健委から「五十九年度からは毎日清掃をする」と発表されたのである。既にうわさが流れていたので、週二回の清掃に慣れていた三年生から猛反対が起こり、総会後も臨時生徒委員会を開くなど騒ぎは大きくなった。しかし、ただ清掃をしたくないという理由だけだったので、正当性に欠け、議論が進むはずもなかった。



『来年からボクらいそがしくなるネ！』

「新校舎も完成したので、汚れた大泉のイメージを一掃させる良い時期」とは保健委員会の弁。自主創造の大泉、たまにはこの様な活動が起こっても良いのではないか。

五十九年度からは「掃除の大泉」と言われるようになるかも知れない。

東京に大雪降る

今年の冬は記録的な寒さで、たびたび大雪に見舞われた。

大泉周辺で二十センチの積雪となった一月十九日は交通機関の混乱が予想された為、午後の授業がカット、翌日も一時限カットという異例の処置があった。昼休みの中庭は、雪合戦や雪だるま作りに興じる生徒で埋まり、体育の時間には雪かきをやらされた。幸い持久走から開放されたと喜ぶ生徒もいたが、中には「あ、家でも学校でも雪かきか…」と溜息をつく人も。改築後半年足らずの玄関前の階段では、足を滑らす人が続出したが、注意を呼びかける黒板と滑り止めのゴザが用意されるようになってからは、転ぶ人はほとんどいなくなった。

その後も二十回以上降り、三月下旬まで町から雪が消えることはなかった。まさに天災は忘れた頃に…である。雪に振り回された感のある冬だったが、東京では珍しい雪景色をジックリ見ることができたのだから、幸せかもネ。

御結婚おめでとう！

♥原田　清美先生♥

大学での留学の同期生。大学卒業後も、グループで飲みに行ったりしてずっと友達としての付き合いがあったとのこと。わりと社交的だがそれほどにぎやかでもなく、性格は全然違うが根本的な考え方は共通しているのだそうだ。苗字は変わらない。「岩田清美よりも原田の方があってるみたいだし、むこうも原田の方が合ってるから、じゃあそうしましょうって。二人ともそういうことは気にしないの。」とのこと。わりと社交的だがそれ……現代的なカップルですネ。

「長いこと友達だったから特に高め合っていきたい。」

＊

▼原田先生の挙式は三月二十五日、西山先生は二十六日、とまさにダブル結婚式であった。おめでとうございます。

♥西山　三郎先生♥

昨年秋、HR合宿の翌日にお見合いをしたのがきっかけ。（みんな疲れて寝込んでたのにタフだ～）合宿の時、宮島で引いたおみくじに結婚運が吉とでたので何となく嬉しかったのだそうだ。花嫁は品川で小学校の先生をしている人。一人立ちし始めた人という感じで、落ちついている人なのだそうだ。ご感想は？

H・R合宿に向けて

五十九年度二学年HR合宿は、十月九日～十一日（二泊三日）に行われる。HR合宿の目的は、「見学したことをもとに話し合う」ことである。

今回の行き先は、岡山・広島方面に決定した。メインは岡山であるが、先生方の希望により、昨年度の二年生と同じ広島で、原爆について学ぼうということになった。

向こうでの活動計画は、ほとんどHR合宿委員会の手に任されている。この大切なHR合宿を活かすも殺すもHR合宿委員によるのである。

一年の時の委員会では、二年になった時の活動に備えて、資料集めを中心に行った。東京事務所や観光案内所を訪れたり、図書館の本を借りてカードにまとめたりした。これを、時間や費用などを考慮に入れて決め、向こうでの活動計画に役立てるのである。わずか三枚ながら『ももたろう』新聞も出した。これで皆の関心をさそうことができれば幸いであろう。

先輩達の話によると、HR合宿の三日間は、本当に短かくて、あっという間に過ぎてしまうという。今年の二年生はこの三日間をどう有意義に過ごせるだろうか。

おことわり

今号の新聞は五十八年度予算から工面して発行するものですが、わずかに足らない分を広告料で補うことにしました。都の規則では何も悪くないとのことですので、今回に限り二十年ぶりに広告を載せることにしました。余金は印刷費として生徒会費に戻入します。五十九年度からは正式に三回分の印刷費があるので広告は載せません。御了承下さい。

新聞小委員会

車の陰が裏口。両横の建物は無関係。

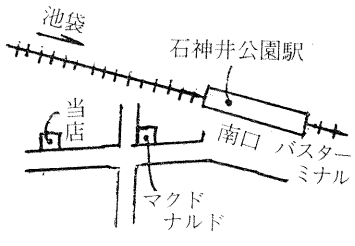
東大内の大通り。バスも通る。

東大の裏口。ここからまだ先がある。

東京大学

ある日ある時

東大内にバス停留所が二か所ある。食堂三軒、八百屋、郵便局もある。面白いでしょ。

富岡書店　石神井銀座通り
練馬区石神井町3－27－4
Tel. 996－0428


大泉高校教科書取次店です。
お気軽においで下さい。

事務機・事務用品・スチール製品・製図用品
印章・印刷・ファンシー文具・コピーサービス
(有) 千代田屋
大泉学園北口　☎ 924－7478

'84新歓ミニ文化祭

例年だと四月に新入生歓迎委員による演音祭が体育館で行われ、文化部のほとんどと、ダンス・体操などのクラブが出演し、にぎやかなものとなる。これをきっかけに入部を決める人も多かったと思う。

ところが今年は改築工事の為、毎年会場となっていた体育館がない。そこで、新入生歓迎委員の発案で、今年の演音祭はミニ文化祭形式で行われることとなった。

四月十三日（金）、十四日（土）両日の放課後、校内に於て行われる。授業終了直後ということと定時制に迷惑をかけないために三号棟を使用しないなどの使用教室の制限があるため、希望の使用教室がかち合う団体ができてしまい、新歓委員を手こずらせた。特に音楽室の使用を希望する団体が多く、結局、時間交代という方法をとった。このため、全ての部を見学することは難しいが、二日間あるので、新入生は工夫をして、ぜひ全ての部を見学して欲しい。

各団体の様子を少し書いてみよう。

まず、筆頭にあげられるのは演劇部。三学期に校内中に「新歓の為の臨時部員募集」というポスターを張って、急きょ部員を集めていた。春休みの間も連日発声練習の声が校舎内に響いていた。

次に演奏関係、吹奏楽、器楽、合唱、軽音楽、フォークソング、それから四号棟三階の和室を使っての箏曲。箏曲部では、今までに練習してきた曲を数曲披露する。日頃あまりなじみのない琴だが、それだけに聞いてみるのも良いものではないかと思う。吹奏楽も毎日の練習に余念がない。今回は持ち時間が少ないので、短い曲を演奏するそうだ。大世帯の吹奏楽と比べると、人数の少ない合唱部では現在男声が少ないことが悩みの種。新歓では、短い曲を五～六曲歌う。どの部も演奏時間の短いことを、問題にしているが、いろいろ工夫しているようだ。

展示関係では、漫画研究同好会、鉄道研究同好会、将棋部、写真部、今年から同好会になった天文同好会などがある。漫研では、いつものように、オリジナルキャラや模写のイラストを展示する。場合によっては、作者との交渉で譲ってもらえる物もいくつかあるということだ。天文同好会では、天体写真や、望遠鏡を展示する。

又、理科系の化学、生物、物理各部も、それぞれの実験室での展示となる。化学部は、化学マジックと銘打って、色素反応の実験を見せてくれる。生物部は、今注目をあびているクローンをにんじんで作るべく、日夜努力をしている。物理部は「物理」という名がついているが、実質はマイコン一筋。我校の物理部は、ソフト面（プログラムの製作）のみでなく、ハード面（機械の製作）がかなりさかんで、自作のマイコンも使っている。今年もマイコンによる演奏等を行う。

落語研究同好会はなぜか、物理部と同居して物理部でやるという。落研の会長は、「その場に応じて、臨機応変にやりますよ。」と、言っていたが一体どうなることだろうか…。

映画研究部では、今までに上映してきた、自作の映画を何本か上映する。

最後に、ダンス部、体操部。この二つの部はいつも、文化祭の演音祭に華をそえてくれる。今年のダンス部は、今流行りのジャズダンスを演じることになっている。ダンス部も部員が少なく臨時部員を募っていた。

「部員が少ないと、できることが限られてしまう。」と、ダンス部員が、こぼしている。

今ここに紹介できなかった部もあるが、どの部も、一生懸命に練習したり、制作したり、準備をしている。新入生諸君も、三月の手続きの時点での歓誘を見て、その熱心さが分かったのではないだろうか。

『ひまな歓誘合戦』

体育祭せまる!!

来たる五月十三日、大泉高校のメイン行事の一つである体育祭が開催される。

早くからその企画を練っている体育祭実行委員会に、活動の進行状況などを少し聞いてみた。

現在は曲技内容を検討中であり、体育祭を盛り上げるか否かの大切な事項なので、委員長は「なかなか困難」と咳いていた。

本校を二つの団体に分ける色は昨年度と同じ赤、青、白の三色。学年別、色別で得点を競う。とっておきのおもしろい企画などは?と聞いたら、少し言いかけてからすぐ口を噤んでしまった。今のところ秘密なのだそうだ。しかし、持久走は是非期待して欲しいとのこと。

困っていることは、実際に委員会に出席して活動する委員の人数が少ないため、とても人員が足りないこと。従って委員に指図すべきはずの委員長が自ら走り回るといったおかしな事態になるそうだ。それから、工事のために校庭が狭いということも挙げていた。

「昨年度は、進行に当たっての連絡がうまく行かなかったことから、競技間の時間が長過ぎて、盛り上がりに欠けたようだ。しかし、今年は、決してそんなことはない。工事にも負けることなく、最高の体育祭にしてみせる」との意気込みである。委員会の主要人物たちの今後の活躍ぶりに大いに期待できそうだ。

当日は、どうか好天に恵まれますように。

58年度運動部実録

—硬式テニス・バトミントンが部に昇格—

☆漕艇部

都民レガッタ
三位（Aクルー）
関東新人戦
準決勝出場（Bクルー）

▼今年はもらったインターハイ!! 前途有望、体力抜群のボート部です。

☆バトミントン部

春季大会（団体）
男子 ベスト16
女子 ベスト4
秋季新人戦（団体）
男子 ベスト8
女子 ベスト8
インターハイ予選（個人）
男子シングル ベスト16
女子ダブルス ベスト16
（男女共一部選手に昇格）
国体予選（個人）
男子シングル ベスト8
女子ダブルス ベスト8

▼今、春季大会入賞に向けて頑張っています。

☆女子バレー部

新人選手権大会予選
全勝（5勝0敗）
東京都選手権大会
ベスト64

☆男子硬式テニス部

東京都高校選手権大会
シングル（望月）
ベスト16（七回戦）
団体（押村、望月）（橋本、管沼）
ベスト32（四回戦）
第五回フジカップ
ダブルス（押村、橋本）
ベスト32（三回戦）

▼このところ寒さが続き、体が動きませんが、負けずに青春をかけてガンバッテマス。

☆柔道部

全国大会第五支部予選会
団体三位
個人ベスト4 河津、堀内
ベスト8 柳浦、佐藤
第三十六回練馬区民大会
団体優勝
個人 石川（一年）二位
第三十三回学年別大会
第五支部予選会
団体三位
第五支部東京都大会
団体ベスト16
第九回東京都新人大会兼第六兼第六回関東新人大会
第五支部予選会
団体3位
第五支部新人大会
個人三名
技能優秀選手賞

▼学年別大会では、都立で最も強いと言われている両国高校を二人残し、勝ち抜きで勝ちました。

☆卓球部

春季都立戦
男子団体優勝
個人一位
二位
五位
女子個人三位
夏季都立戦
男子団体一位
個人一位
斉藤賞
女子個人二位

▼最近は、活動場所を渡り廊下に移し、春の試合めざして活気が出てきています。

☆女子軟式テニス部

関東予選
武田、小林 二勇／一五〇位
河合、渡辺 二勇／一五〇位
夏季都立戦
武田、谷員 二勇／一五〇位
河合、渡辺 一五二／一五〇位
インターハイ予選
武田、谷員 二勇／一五〇位
河合、渡辺 一五二／一五〇位
城北大会
武田、谷員 二勇／一〇〇位
河合、渡辺 二勇／一〇〇位
東京選手権
武田、谷員 二勇／一七〇位
河合、渡辺 一五二／一七〇位
新進大会
田中、小美濃 二六／一九〇位
土井、斉藤 二勇／一九〇位
インドアー団体予選
団体 六四／一七七位
都立戦
田中、小美濃 三位

☆男子軟式テニス部

インドアー大会予選
ベスト8

▼顧問の先生のおかげでこの成績を残せたが、これからもより一層がんばりたい。

☆男子剣道部

インターハイ個人都予選
谷本 五回戦進出
（ベスト32）

▼特に三、四回戦で強豪私立を破ってのこの結果は立派だ。次回の選手にも期待したい。

☆陸上部

インターハイ都大会
男子四〇〇M
植田 八位（50秒8）
新人戦都大会
男子四〇〇M
植田 一位（50秒1）
関口 七位
女子四〇〇M
高橋 （61秒3）
女子四×一〇〇Mリレー
成田—松岡—高橋—広井
（51秒9）
駅伝都大会
男子 十八位（2分27秒06）
（左近—植田—在田—花輪
—新井—関口—平原）

☆女子剣道部

六校戦
団体優勝
都新人戦
団体 ベスト16

新入生諸君へ

生徒会長 中村 千春

ようこそ大泉へ。今年は倍率も上がり、かなりの激戦だったそうで、みんなご苦労さん。レベルアップもあったとうり、準備をしている。新入生諸君も、三月の手続きの時点での歓誘を見て、その熱心さが分かったのではないだろうか。

窓

大泉生紹介

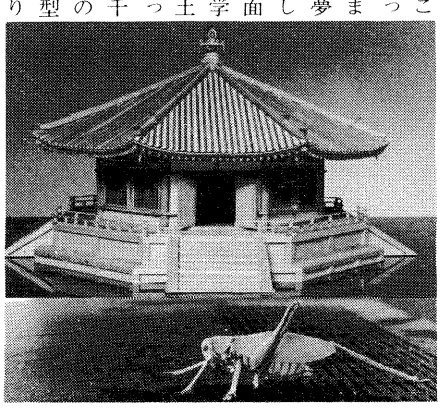
工芸の先生も絶賛

今回この欄では、生徒の趣味や特技を紹介する。そこでこの人、三年生の中村聡君。彼は、角材・ひご・紙を使って、建物から植物、昆虫に至るまで何でも作ってしまうという特技というよりむしろ職人芸の持ち主なのです。

「小学二年生のときに、工作用紙で自動車を造り始め、それ以来下田学園（体を丈夫にするための寮）にいて、おもちゃを買えなかったこともあり、物を造ることに熱を上げた」と中村君。材料も工作用紙から竹、画用紙、角材と変わり、現在は、角材などで薬師寺東塔（三重塔）を製作中。画用紙でできた走るデゴイチ機関車、帆船メイフラワー号、竹と画用紙のぼたんの花など、どれも目を見張るものばかり。特に目を引く彼の代表作、角材による法隆寺夢殿と角材と画用紙によるキリギリスは、模型店から展示の依頼を受けるほどで、工芸の広瀬先生も絶賛されている。夢殿屋上部の水煙などは、銅線を使ってとても精巧にできており、正味半年もかけたのも、単なる趣味の域を超越していることを物語っている。また、彼が夢殿を製作した理由も面白く、修学旅行先の土産店で売っていた数千円の木製の夢殿の模型が、あまりにもちゃちであったので自分で造ろうと思いたったとのこと。

彼は他にも、昆虫（バッタ、キリギリス、コオロギ）の観察記録を毎日詳細に付けており、今春四年ぶりにキリギリスが孵化したと喜んでいる。

この大泉の生徒にこのような人がいたことを知らなかった人も多いことと思う。「こんな人がいます」という方、新小までお知らせ下さい。


法隆寺夢殿　キリギリス

編集後記

▼またずるずると新聞をやることになってしまった……。一度、まじめに記事を書いたのが運のつきだった。

▼Kのバカヤロウ。つかれたヨー。

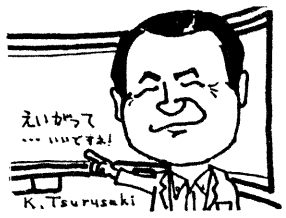
▼先輩が卒業してしまった。クスン、クスン……。

▼誰でもいいから新聞小委員になってください。このとおりお願いします。

▼新聞の委員会室は、寒いヨー。ここにストーブがあったらもう最高!!

大久保先生を偲ぶ

○…　他の先生方から見た大久保先生とはどのよ…○
○…うな先生なのだろう。きっと、私達生徒には…○
○…わからない面も沢山知っているように思う。…○
○…そこらの先生とはちょいと違う大久保先生を、…○
○…もう少し理解したく、この企画を立てた。　…○



（昭和51年卒業アルバムより）

サッとくるんじゃないかと思うからつい身構えちゃう。

金尾　僕は大泉に来る前の赤城台高校から大久保さんと一緒で、個人的な悩みも打ち開け合う程親しかったのだけど、それでも、彼の基準があって、ズバリと言われましたね。

高橋　現代的な個人を大切にする人なんだ。それを侵されることを許さない。そういうところは、もうすごく個性の強い人でした。

金尾　いけないことはいけない、遅刻は、校風の為などでなく無条件にしてはいけないのだ、という論法ね。

高橋　そういう面では非常に厳しかった。

石井　大久保さんは圧制者だったのかな。一昨年の一年三組はどうしようもなかった。暗くて。（笑）

高橋　特に体調が悪かったんじゃないかな。ヒステリックな怒り方が目立ったと思う。

石井　人間は生理的に病んでいると、行動とか言動にでる。

江平　去年、学年が始まる時にも、自分の休みが多いことを心配していて、休まないようにしなくちゃなあという話はしていたんだ。そういえば、昨年の終わりから全然休んでいないね。無理してたんだね。

金尾　寒さと季節の変わり目は、彼は一番調子が悪い。具合が悪くて休まざるを得ない状態というのは、本人にしかわからない、他人にはわかってもらえないと言ってました。

大野　先生達が集まって飲むことがよくあるのだけど、大久保先生は少し飲んでも真っ青な顔をして冷や汗をかいていることがよくあった。やはり身体が弱いんだなあという感じをしばしば受けたね。

校長　だから思っていても実行の面ではできなくて、評論的にならざるを得なかったんじゃないかな。

金尾　そう、その理由でイライラしていたことは事実です。よく僕に言ってました。

大野　どんな批評をするにも古典を大切にしていましたね。歌舞伎の型とか……。

金尾　そういったものから応用、展開があるのだということと、それは彼の一貫した姿勢ですよ。基本は大切なのだと。

高橋　その辺は、彼の中にも矛盾があるんじゃない？

石井　あるね。基本を積み重ねていくべきだと言うけれど、彼自身は才気走った都会的な考え方を持っている。そして才気の感じられる映画はとことんけなす。これは才気だけで作った映画だ、とか。

高橋　いわゆるクラッシックというものをすえておかないとどこまで飛んでいっちゃうかわからないという怖さがあって、そういうものを両方もっているんじゃないかな。あの人の批評力というのはとても強いから、ものすごくラディカルなんだよね。で、あんまりラディカルになり過ぎると型が壊れる恐れがある。そこに矛盾があったみたい。飛び出し過ぎると型に戻る、危なくなってくるとまた型に戻るという感じで発想自身がそれの繰り返しだったみたい。

石井　革新的なのかと思えばおや保守的なのかと思わせたね。昭和44年に始まった本校の学園紛争の時には、完全に体制的な考え方になってました。卒業式問題だとか当時は沖縄返換問題でわーわーやっていて、新聞・社研・映研がワンセットになって顧問団としょっちゅう団体交渉が行われた。僕自身非常に保守的だったのと、当時世界史を教えていて授業では革命を是認して三時を過ぎると否定しなくちゃならなかったから、オタオタしたんだよね。当時の生徒はそういう方面にかけてはものすごく勉強してたから、論理、論理で押して来る。それと僕は生徒的発想に共鳴する部分もあったから言いよどんじゃう。ところが大久保さんは、それはこれだからいけない、これはこうだからこっちの方が正しいと論理的に言い返すわけ。それも顔色も表情も変えずにスパスパッて言える。普通、興奮すると真っ青な顔になっちゃうんだけど。生徒に対してはやはり余裕があるんですね。ついにむこうのリーダーが「てめえ外に出ろっ」てどなり出した。暴力で決着をつけようという訳だ。

高橋　論理で負けたからだね。

石井　その時は他の先生が押さえたけど、一番強烈に覚えていることです。あの束になって論理で押して来るのをそこまで追い込むことが出来たってことだね。また知識もあった。

金尾　本はよく読んでいたね。

石井　映画についてもものすごい資料を作っている。公開された日付やキャスト、スタッフなんかも全部書いていて、感想も細かく書いていて、日記代りになっている。そしてそれをしょっちゅう見て、思い出しているんですよ。

高橋　映画を軸に、知識がファイル化されているんだね。

石井　「知的生産の技術」なんていう岩波新書がでたのは、もっとあとでしたよね。

江平　広島ＨＲ合宿については今の三年生が入学する前から話が進められていたのだけど、広島は遠いし、初めてのことだから何ができるかさっぱりわからなかった。そういうところで大久保先生の豊富な知識とか論理的な考え方とかが非常に役に立った。合宿が成功して一番喜んでおられたのは、大久保先生だった。

司会　生徒の思っている先生と全然違うんだなあ……。

校長　大人と生徒の社会では、やはり色々違うんだよ。

高橋　人間って立体的なものだから、後姿と前の姿がある。

金尾　生徒の方では、多面的に先生を見て、色々な事を学んでいかなくちゃいけないと思いますね。

司会　生徒の立場から見ると、大久保先生という方はとても厳しくて、でもその反面、雑談が飛び抜けて面白い先生という印象なのですが、先生方はいかがですか。

校長　僕は校長としてよりも以前化学の教師として同僚だった時の印象の方が強いです。話が非常に論理的でわかり易かったし、映画や他の方面でも知識が豊富で、人間的に幅広い感じがしました。

金尾　頭がきれるんですよ。知識が多いのは、記憶力がいいからでしょう。

石井　その知識が、全部整理されて頭の中に入ってるんだね。それをコンピューターみたいに順序よく瞬間につなぎながら話をするから、彼の話は非常に面白い。その場に適当な話を次々に自由自在に引き出して話を進めていたね。職員会議などで僕とは反対の意見を言っても、その瞬間瞬間これは見事な論法だ、或いは非常にうまい比喩を引き合いに出しているなと感心しながら聞いているから、彼が座った時には結局あの人は何を言ったんだろうって思っちゃう。言葉に酔っちゃうんだね。

大野　何を言うにも、鋭角的に切り込んでくる感じだった。おしゃべりをしていても、グも強いから、

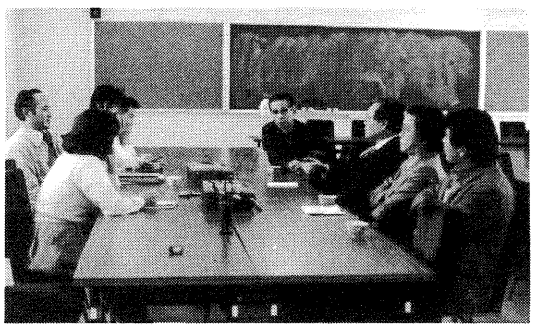
出席者氏名

図子岩雄先生（校長）
江平　清先生（物理）
石井　秀先生（現社）
大野義彦先生（国語）
金尾進弘先生（世界史）
高橋健二先生（英語）
顧問・沼田英一先生（数学）
司会・新聞小委員

生徒と一緒に書いていた映研部誌を見せて下さった。

金尾先生は、大泉にいらっしゃる前から大久保先生と親しく、一番つき合いが長い。

石井先生は、かつて新聞委員会と映研の顧問を一緒にやっておられた。特別親しかった訳ではないが、互いの個性は認めていたのではないかな。


右列奥から金尾、校長、高橋、大野先生
左列奥から沼田、江平、石井先生

弔辞

きのうの朝はいつもとちっとも変わらない朝で、ただ、休みの明くる日の月曜日とあって、みんないつもより明るく登校したところへ、突然、本当に突然、担任である大久保俊男先生の死を知らされました。本当に悲しかった…。そして、今日のこのまっ白な雪が、私達をいっそう悲しくさせます。

先生の「死」という現実は一日たった今でも信じられません。というより信じたくないのです。学校へ行けば、出籍簿と教科書を小脇に抱えた大久保先生が、すたすたと廊下を歩いて七組の教室にやって来て、そして教壇に立ってその時先生は、「僕は絶え間なく読書する男だが、今まで読んだ本の中でこれが一番好きで、何十回と読み返した。今度また、内容について話しますから」と確かにおっしゃったのに、まだ話も聞かないうちにその本は、大切な形見となってしまいました。

先生が最後に七組の教壇に立たれたのは、土曜日の放課後のホームルームの時間でしたが、教室が汚れている、遅刻が多い、と私達は最後の最後まで先生を怒らせていたことが、残念で悔やまれてなりません。

これから私達は、今のこの悲しみを一刻も早く美しい思い出に変えなければなりません。先生が愛して下さったこの二年七組を、今度は自分達で高めていかなくてはなりません。

大久保先生、心配ですか？　たよりないですか？　でも先生が、大好きだったビング・クロスビーなどの歌でも聞きながら、いつまでも私達をあたたかく見守っていて下さい。御冥福をお祈りします。

一月三十一日

元二年七組　藤原裕子

大久保先生について

昭和七年四月二十三日生まれ。東京教育大学を卒業し、英語の教師となる。一時は映画評論家を志す程の映画狂いで、授業そっちのけの雑談は天下一品の面白さ。大泉高四十年誌の委員長を務められた際には、昔の大泉新聞などを一人で担念に調べられ、先生の功績は大きかった。新聞委員会の顧問としても、大変お世話になった。残念この上ないことだ。

御冥福をお祈ります。

「一を聞いて何を知るか」

大久保先生の御遺稿

もとより教師は、生徒に一を聞いて十を知ることを望むものではない。そんなことは出来るはずもないし、もし出来るという者がいたら、その人間のメンタリティは異常かつ物騒であって到底当てにすることは出来ない。しかしながら、一・二・三・四・と教えられたら次は五だというくらいの才覚は、いやしくも学校で教育を受ける者には必要であるし、事実そんなことなら誰にでも出来る。四の次は五でよいのだと教室で保証されたら、その次には当然六が来るという見当がつく。具体的に勉強の段取りで言えば、一・二・三・四・五をよく見なおし、この数字の増え方の法則を承知するまでが復習ということになり、では次は六だろうというのが予習である。ここで無茶なのは棒暗記というやり方で、法則は考えもせず、承知もせず、一・二・三・四・五・六と門前の小僧が習わぬ経を読む要領で覚え込み、試験の時、答案用紙の上にこれをそのまま吐き出す。困ったことに、小、中学校を通じ今までの勉強なら、たいがいはこれで点になった。勿論、試験ともなれば、問題は経の棒読みそのままではなく、三の次は何だとか、四と六の間の数を答えよとか、あるいは一寸難しくなって、一の次の次は何だとか、種類は豊富になるが、これは要するに一から六までを暗記していれば全部出来るので答案を仕上げるのは単に手間の問題にすぎない。中学まで可成の成績をあげながら高校に来てガクンと落ち込み、本人も親も呆然とする場合は、おそらくはこういう今までのやり方に原因がある。別に急にさぼり出したためでもなし高校の先生の教え方が意地が悪いというのでもなし、いわんや部活動のためなんかでは断じてない。一から六までを暗記しておけばいいという幸せな時代は既に終っていることを自覚しなければいけない。点になればいいのではない。

この数字は一つずつ増えていくのだというつかみ方をしておくことが大切なのである。中学までにこれを身につけていれば高校でも基本的には通用する。再び具体的にいえば、復習が重大な意味を持つ。棒暗記は復習ではない。少くとも復習の全部ではない。教えられたことを覚えるだけでは門前の小僧と一般である。小僧伝々の格言の真の意味は奈辺にあるかはしばらくおくとしても、経さえ読めば名僧智識になれるわけではない。高校の勉強は複雑になる。しかし複雑は混沌ではない。二・四・六・という数字の列を見て、こいつは訳が今からないと思う者は棒暗記組である。次は何かと問われて、六の次だから七だと答える者は門前の小僧の類である。一・二・三・四…は数値が一つずつ増えているのだというつかみ方をしていた者は、勉強のやり方を身につけているから、二・四・六・を見ても驚かない。今度は増える割合が二だとすぐに気付いて六の次は八だと考える。次に一・三・という数列を見せられる。三の次は何か、五かなと思っていても先生は、いや違う、九だといったりする。一・三・九となると棒暗記組はお手あげになる。しかし、教師は親切である。三の次は何故九かをよく教えてくれる、それをよく注意して聞くこと。家に帰ったらよく考えて記憶に残すこと。そうすれば翌日の授業で九の次は二七だと教えられるのが乾いた砂が水を吸うように頭に入るはずである。

分かりやすいように数字で話をしているけれども、私は担当の英語の話をしているつもりである。そして理科の先生なら、これは理科の話になるし、国語の先生なら、そうだ国語も同じことだと言うにちがいない。高校に入学して随分たつが、依然として英語の手がかりは中学時代にたたき込まれた一二三四五…しかなくて、二四六八を教えてもてんで受け付けず、次の日四の次はと聞かれて五だと答える者が多すぎるのである。

（昭和五十二年PTA会報『いずみの声』より）

「もっと勉強しなくちゃ　ダメですよ」
「はい。スミマセン」

おわりに

元二年七組の人たちが、「大久保先生追悼文集」を作った。活字ではないが、立派に製本してある。生徒から、とても慕われていた先生だった。

先生方のお言葉はなかなか興味深かったと思う。二時間しゃべりまくったテープを泣きながら原稿に起こしたので、えらく時間がかかった。新聞のことでも色々心配していただいた。最終チェックをしながらまた涙：夢であればと何百回思ったか。　（泣き虫）